

年頭にあたって

岩見沢市長 渡辺孝一

市民の皆様、あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、私は、今年も、まちの将来をしっかりと見据えながら、市民が主役の市政運営を進め、「人にやさしい温かい街づくり」の着実な前進を目指して、全力投球する決意を新たにしております。

さて、昨年を振り返ると、良い事、悪い事それぞれあったかと思えます。当市においては、JR部分の駅舎が完成し、さらに市の施設部分や自由通路の建設も始まりました。しかしながら、中心市街地の活性化や「にぎわいの創出」という点においては、まだまだ不十分であり、一部民間の方の力を借り、居住系の開発は進みましたが、さらに推進していかなければならないと考えます。

基幹産業の農業では、当初、豊作も期待されましたが、7月の低温により大変厳しい結果となりました。また、国の制度変更のため、所得が著しく低下したとの報告も受けた例もあり、残念に思っております。さらに、後継者の問題も浮き彫りになり、今後、ますます厳しい状況が想定されます。

一方、地方財政を見ますと、国の構造改革に端を発し、地方交付税の縮減により、岩見沢の財政も予断を許さない状態でもあります。今後、さらに厳しくなるであろうこの予測から、気を引き締めなければいけないと考えております。

しかしながら、21世紀の街づくりを考えますと、こういう苦しい時だからこそ、歯を食い縛りながら、がんばらなければならぬと思います。

自助（自分で出来ることは自分でする）

共助（仲間助け合い、支え合う）

公助（行政がしっかりと責任を負う）

この精神の中で、責任を分担し合い、自主自立の街づくりを目指し、行動していくのが真の分権型社会の構築と考えます。

今こそ、市民の一人ひとりが心を一つにし、21世紀のふるさと岩見沢を皆の力で築き上げなければいけません。

- ・ 住民自治を推進し、よりお互いの人間関係を深め、支え合い、助け合う街づくり
- ・ 市民全員が、安心して安全に暮らせる街づくり
- ・ 自分一人が良ければ、などと考えず、全体の幸せの中から個人の幸せも願うまち

そんな思いを今、市民一体となって持たなければ、子々孫々に、しっかりとした岩見沢は継承していけないと思いません。

本年は、その試金石になる年でもあると思えます。

農業が、建設業が、商店街が、なくなるわけではありません。ぜひ力を合わせ、素晴らしい平成20年を皆さんと切り開いていきましょう。

私は、これからも、しっかりと市民の皆様の方を向き、全力疾走してまいります。

本年が皆様にとって希望に満ちた年になりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のあいさついたします。

平成20年 元旦



子どもたちも元気いっぱいに発言した
栗沢小学校での移動市長室